

令和5年度 宮崎県博物館協議会議事録

日時：令和5年10月30日（月）13:30～16:00

会場：西都原考古博物館ホール

1 出席委員

八ツ橋寛子会長、柳澤一男副会長、永山新一委員、大重美貴委員、田原理恵委員、堀田由美子委員、松田律子委員、片寄元道委員、出口智久委員、山下裕亮委員、那賀教史委員、川越祐子委員、堀田憲一委員

2 事務局職員

- (1) 宮崎県総合博物館
松野義直館長、赤崎広志副館長、寺原真由美総務課長、黒木秀一学芸課長
- (2) 西都原考古博物館
岩切喜郎館長、飯田博之副館長、日高広人主幹、阿波野ゆかり主幹、松本茂主査、後藤清隆主査
- (3) 文化財課
長友由美子課長、津田秀信課長補佐

3 会議次第

- (1) 開会
- (2) 開会あいさつ
- (3) 委員・職員紹介
- (4) 会長あいさつ
- (5) 議事
 - ア 令和4年度総合博物館の事業報告及び評価について
 - イ 令和4年度西都原考古博物館の事業報告及び評価について
 - ウ 令和5年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について
 - エ その他
- (6) 閉会あいさつ
- (7) 閉会
- (8) 国際交流展観覧「農耕への道～九州・台湾における植物栽培のはじまり～」

4 質疑応答

- (1) 令和4年度総合博物館の事業報告及び評価について

○委員

まずは、いろいろな活動をされ、資料を残していただいた。

特別展など職員のみなさんが調査をして、展示をし、さらに、研究資料を残すと、非常に密度が高い仕事ぶりと感じている。

要望として、展示物が並べられるだけで解説が少ない展示会があったので、総合博らしくないと思ったら、貸館での展示会と気づいた。総合博で開かれる展示会は、すべて総合博主体で実施しているものと思っていたので、貸館事業であっても総合博の責任の下、もう少し解説を付ける等の展示会にしていきたい。

○総合博館長

県民から見れば、博物館の展示会であって、館が主催しているのか、民間が主催しているのかは関係ないと思われる。

ご意見は、今後、貸館を行う際に、そういった意見があるということを伝えて、できるだけ努力をしていきたいと考えている。

○委員

危機管理に関して伺いたい。防災訓練・避難訓練等、地震火災等への対応は、それぞれ計画的にされているし、防火、防災に関する研修等を実施していると思うが、体調不良者が出て、緊急的な対応が必要になった場合、例えばAEDの設置場所が何ヶ所かあって、誰がどのように対応するかという流れがあるのか。そして、不審者等が公共的な施設に侵入した時の対応について知りたい。

それから、もう一つ、収集資料の整備管理について伺いたい。私の資料館では収蔵資料の保管が非常に厳しくなっている。博物館の収蔵庫管理の状況で悩みがないのか、教えていただきたい。

○総合博館長

危機管理については、年間2回避難訓練・誘導訓練を行っている。

私の方から、訓練後の反省会で、AEDの訓練もやったほうがいいと言ったところである。

私自身も今まで3回ほど研修を受けているが、時間が経つと忘れてしまう。総合博の場合は、全職員が使えるようにしておかないといけないと感じ、AEDの訓練についても今後実施しないといけないという話をしたところである。

不審者対応については、訓練は実施していないが、今はどこで何が起こるかわからない状況と思うので、警察の協力のもと、訓練を実施するのが望ましいと考えている。

また、収蔵庫について、総合博は6分野それぞれで収蔵庫があるが、余裕がない状況である。トータルの収蔵状況は65%から70%ぐらいになっている。資料は毎年増えていくため、いつかは不足することを想定して収蔵の方針を考えなければならないと感じている。

○委員

やはり安心安全な場所ということが公共施設には求められていると思う。私たちも十分気をつけないといけないと思う。

○委員

博物館の建物整備は、100年事業とかそういう大きな節目の時にしか予算が準備できないと思う。

総合博物館は50年ということだが、そういう点では非常に良い時期に来ている。1983年に置県100年の特別展を総合博物館で実施している。この時には、博物館の管理棟や収蔵庫の防水工事などを実施している。10年後の置県150年はチャンスと捉えてぜひ建物整備など進めてもらいたい。

また、長期スパンを考えて専門職員などの配置を検討していただきたい。

○総合博館長

確かに建替というのは何かきっかけがないと難しいと思う。公共施設は全部老朽化し始めているため、古くなったから建替というのは非常に厳しい時代になっている。そのため、委員の言われた置県150年というのは、大きなきっかけになり得るのかなと思う。ただ、非常に費用もかかる話であるため、まずは、経費のことは置いておき、博物館の魅力向上計画のようなものを、本年度作成し始めたところである。

専門職員の配置については、昨年度2名採用しているが、今後も計画的に採用し、博物館の基礎を固めていきたいと考えている。

○委員

確認で、予算の区分について教えていただきたい。県の予算の中で、博物館経費は、一般会計なのか、特別会計なのか。

○総合博館長

一般会計である。

○委員

予算の事が資料に全くないので、どれだけの規模で運営しているのかがわからない。予算の動きが分かる資料を入れるように要望する。

資料の外部運営資金の獲得で3/4取れたという事も、いくら取れたのかという数字を入れていただくとよかったと思う。

また、これは外部評価となるので、我々個人でも企業でも、自分たちの立ち位置について、必ず他と比較すると思う。他の博物館、他県の博物館は、これだけの規模で運営しているとか、入場者はこれだけいるという事を比較しないと、あくまでも自分たちで設定した指標に対して、評価してもあまり意味がないと感じる。

同じ人口規模の中核市があるような県と比較した方が、わかりやすいと思う。

昨年との比較、例えばコロナ禍だから入館者が減少して当然なのだが、他県の博物館だと前年に50%減ったけれども、宮崎の博物館は20%で抑えたと言われれば、評価が上

がると思う。内部で作った評価ではなく、外と比較した指標が欲しい。

西都原考古博物館は、同様の施設はなかなか他にもないと思うので、比較するのは難しいと思うが、総合博物館はそういったものがあるといいと感じた。

○総合博物館長

最初に予算については、今回の資料には出していないが、年報の3ページの下、(2)令和4年度の当初予算が1億6461万1千円であり、例年同じ規模である。今年度は、防水工事を施工するため、これに約7,000万円増額した数字になる。資料に入れるというのは今後検討させていただく。

外部資金については、4件申請して3件採択されている。内訳が、開催中の特別展「黒潮はくぶつかん」が助成を受けており、公益財団法人日本海事科学振興財団からと、全国科学博物館振興財団からの助成がある。

さらに②蒙古襲来絵詞の保存修理に関しては、三菱財団からの助成がある。

他の博物館との入館者数の比較については、現在、平成27年から平成30年までの実績をもとに目標を作っているが、同規模の博物館との比較も大事だと思うので、次の計画の目標を立てる際の参考にするかもしれないため、早急に検討したい。

○西都原考古博物館長

予算については、考古博物館の年報には全く記載していない。これについては次回に向けて検討したい。

外部資金については、実は採択になったところが今のところない。ただ、我々としても、外部資金の活用というのは重要だと考えており、数件は申請をしているところである。今後も、外部資金については、積極的に対応したい。

他の館との比較については、当館の場合、同規模で、同じような環境にある博物館を探すのは難しいかもしれない。新たな視点ということで、今後のビジョンの策定において検討したい。

○委員

まず、お礼を述べさせていただく。

昨年度の3月の総合博物館の調査報告会にZoomで参加させていただいた。学芸員の皆様の調査に触れることができ、大変良い機会をいただいたと思っており、いい経験ができたと感じている。

もう一点、本校の3・4年生の児童が遠足で総合博物館を活用させていただいた。3・4年生、合わせて7名ですが、引率した担任より本当に丁寧に説明していただいたと聞いた。子どもたちは、次の日、目をキラキラさせながら、どれだけ博物館が楽しかったかということも話してくれた。そういう小さな、まだ8歳9歳の子どもたちがこういう機会に触れることで、これから興味関心に繋がっていくということを改めて思ったところである。本当にありがとうございました。

(2) 令和4年度 西都原考古博物館の事業報告及び評価について

○委員

西都原考古博物館の貴重な資料の収集と保存活用、それらを生かした様々な取り組み、非常に成果を上げていると思ったところである。

今日もこの考古博物館に伺ったときに、すばらしい環境と施設設備。入口のところで見上げると、圧倒的な存在感の建物。

ここに来て本物に触れることができる。しかし、なかなか来ていただくことに難しさがあり、平成30年の90,000人に届いていないということが課題かと思う。コロナ前に戻るための対策がさらに取られることを期待したい。

学校の利用が増えているということで、博物館の努力と思う。さらに、宮崎ならではの考古学への興味・関心を高めるために、小中学校や特別支援学校の子どもたちに、宮崎ならではの学びができるということが非常に重要だと思う。子どもたちの発達段階に応じた企画を充実させ、より分かりやすく面白く、魅力ある体験ができると良いのではないかと感じているところである。

○西都原考古博物館長

来館者数を伸ばすために一番手っ取り早いのが、子どもたちに来てもらい、そのご家族を連れてきていただくというのが、一番有効かと考えているところである。

私ども考古博物館においては、その敷居をどうやったら、少しでも下げられるか、もしくは、子どもたちが興味を持てるような形に持っていけるかというのが、我々が器量を試されているところなのかもしれないと思っている。

今後、企画する展示会・イベントについては、委員からいただいた意見を参考にしながら考えていきたい。

○委員

総合博物館・考古博物館二つ合わせての感想。

今、学校ではGIGAスクール構想といって、1人1台ずつタブレットを持っている。何かあればすぐタブレットで調べ、授業にも使用している。

私は、やはり実物を見て、触って、感じて、そして結果的にわからなくても、聞いてみたり、どう調べようかと考えたりする子どもであってほしいと思っている。そのためには、博物館がすごく大事だと思う。年に1回だが、1・2・3年生は宮崎の方に、4・5・6年生は西都の方に行っている。3年間同じことをしていると思われるかもしれないが、3年ではなかなか分からないことが多いと思うし、もっと深く学ぶということになれば、機会は十分にあると思うので、私は博物館での体験は大事にしたいと思っている。

何人か指摘があった交通の便の悪さについては同感である。

総合博物館と考古博物館の先生方、今のままでいいので、どうぞ頑張ってください。続けていただきたい。

○西都原考古博物館長

考古博物館では、コロナのこともあり、修学旅行自体が大分減っている。ただ、これから11月になるが、遠足でたくさんの方の学校にお越しいただくことになっている。

当館は手の届く範囲の遺物に触れることができる。児童・生徒のみなさんには古墳から出土した遺物に直に触れていただきたいと思っているので、今後ともご活用願いたい。

○総合博物館長

総合博物館でも、タブレットを見るだけではわからない、実際に触ってその質感や温度などを感じたり、音を聞いてみたり、においを嗅いでみたり、そういうリアルな体験ができるというのが、博物館の良いところだと考えている。今後、遠足など多くの方に来ていただければと思う。

また、今まで新型コロナのためにいろいろ制限をされてきたが、5類になったということもあり、今後、博物館は外に出て行かなければならないと考えている。一番は展示を充実させて来てもらうということが重要ではあるが、「どこでも博物館」など、私たちから外に出て行って、様々な団体、民間含めて、交流をしながら勉強しながら博物館の魅力を発信していくことも大事であると思う。

○委員

考古博物館の夏の展示など、埋蔵文化財の調査・研究の蓄積が展示に表れていた。ぜひ来館してその成果というものを見ていただきたいと思う。

また、小中学生について、博物館での体験は子どもたちの興味・関心を高めるため、どのようにして博物館に来てもらうかを総合博・考古博の両館で連携して実施してはどうか。

○西都原考古博物館長

今年の夏の中世山城の展示会では、多くの方に来ていただいた。今後もいろんな皆さんの興味をかき立てるような展示をして参りたい。

総合博物館と考古博物館の連携については、把握はできていないが、学年を変えて、それぞれに来ていただいていると思っている。それが何らかの形で連携ができると非常に面白い形になるのではないかと思うので、今後参考にさせていただきたい。

○委員

考古博物館の展示についてだが、来館者はある程度、年配の方が中心になると思われる。入場者数を単に増やすだけではなく、より愛される考古博物館にするなら、小中学生を中心に来館してもらえるといいと思う。

先ほど館長の話で、展示物を手に取れると伺ったが、それは案外面白い切り口になるのかなと思う。徳島県にある大塚国際美術館。陶板名画で有名で入館料は大人で3,300円だが、非常に入館者が多い美術館である。私が一番印象深かったのが、モナリザの絵。

当然陶板だが、ルーブル美術館に展示してあるものと原寸大で、触ることができる。考古博物館、総合博物館もそうだが、いろいろなものに触って学ぶきっかけにするというのは、かなり面白いかもしれない。ぜひ、ご検討いただければと思う。

○西都原考古博物館長

来館者に触れてみてくださいと案内すると大体の方は、「ええ〜！」と皆さんおっしゃる。発掘した遺物に触れられるということ、PRしたほうがよいのかなと私も感じており、今後、そういった取り組みについても検討したい。

○委員

資料4の地中レーダー探査のところに、南九州古墳文化を広く発信し、世界文化遺産を目指す取り組みの一環と書いている。この世界文化遺産を目指すというのはどれくらいの本気度をもってやっているのか。もし、本当に本気で取り組み、これが実現するならば、爆発的な効果があると思うのだが、その辺りをお聞きしたい。

○西都原考古博物館長

今現在、西都原古墳群、新田原古墳群、高鍋の持田古墳群、宮崎市の生目古墳群が日本遺産に認定されている。

この状況にある中で、その上を目指すというところで要望している。確かに世界遺産となると非常に難しいところではあるが、取り組みの一つという意味とっていただきたい。

○委員

世界文化遺産に匹敵するというか、それだけの価値があると思う。そうなれば、多くの人に興味を持ってもらえるのかと思う。

○西都原考古博物館副館長

世界遺産の認定を目指している。ただ、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産になったため、同じ切り口ではなく、いろいろな視点、例えば景観というのが古墳群の一番の売りなので、そういうところから提案をしていければと考えている。文化庁とも協議は継続しているところである。

○委員

世界遺産が実現したらすごい人数が来ることになると思うので、期待していきたい。

現在コスモスが咲いており、今日もたくさんのお客さんが花を見に来られている。もうすぐ古墳まつりもある。例えば、古墳から出土した資料をちょっと会場の一角に持って行って、触ってもらう。博物館も待つだけでなく、出て行くという取り組みはいかがか。

○西都原考古博物館長

古墳まつりは西都市観光協会が実行委員会形式で実施している。

今度の古墳まつりは、考古博物館少年団の子どもたちと一緒に、会場で勾玉作りのブースを出して参加する予定にしている。そういう形で、さらに考古博物館の方に来れば、体験館で他の体験もできるということも含めて、PRと考えている。

○委員

コスモスの時期も桜の時期もだが、来場されている人に博物館に来てもらうということが重要と思うので、積極的に出ていくことを継続していただけると入館者が増えることにも繋がると思う。

子どもが行きたいと言えば大人も一緒に来るということもあるだろうから、非常に難しいことだが、子どもが興味をもてるように、外部の意見も聞きながら、有効的な方法を探っていただけると良いのではないかと感じている。

○委員

私はフリーライターなので、いろいろな雑誌に関わる中で考古博物館も総合博物館も取材をさせていただいている。

展示を見るだけではなく、3階に上がって古墳群の景色を眺めることもでき、3階に足を運んでもらえると感動するんじゃないかと思う。そのことについて、何か工夫している点があれば教えていただきたい。

○考古博物館長

本館3階は、確かにご存じない方も結構いらっしゃる。我々としても、ぜひ3階まで上がっていただき、ラウンジでコーヒーなどを飲んでいただきたいということもあるので、今後、PRに努めて参りたい。

○会長

私も今日午前中、早く来たので、3階ラウンジでお昼を食べた。

本当に3階ラウンジからの眺めを見ながら、ぼーっと過ごせて、すごくストレス解消になったところである。ぜひ3階に上がっていただければと思う。

(3) 令和5年度総合博物館及び西都原考古博物館の事業計画について

○委員

講座等に参加する人や子どもたちに本物を触ってもらうことは、体験的で歴史を感じてもらうには、すごく大事なことと思う。

子どもたちが、コロナ禍で体験できなかったことが影響して、さまざまな体験活動に飢えていると感じる。

昨年度「親子で発掘作業」を実施した。10組の募集に30組ぐらい応募があり、募集枠を広げた。子どもたちは、ちょっとした土器の破片を見つけると、ものすごく喜んでいった。その後、歴史民俗資料館で土器を見て、学芸員の説明を聞いたのであるが、体験活動と展示物の鑑賞といった非常に繋がりのある活動ができたと思っている。

考古博物館では子どもたちが講座や少年団活動に盛んに参加しているので、さらなる工夫をしてほしい。

○西都原考古博物館長

西都原考古博も様々な講座を実施しているが、ほとんどすぐに定員に達している。発掘体験作業については魅力的な体験講座であるが、県には、埋蔵文化財センターがあり、センターもアウトリーチ活動を行っているところであり、今後、連携が取れるところは対応を考えていきたい。

○委員

触ることや体験できることは、我々も一般公開時に重視している。

西都原考古博のホームページでは、どこにも触れられるという言葉が見当たらないが表示があるのか。

Facebook の情報発信もたくさんされているが、ホームページに表示できるようになると良いのではないかと。Facebook での情報発信も大事だが、閲覧者は最終的にはホームページと思われるので、情報の出し方を検討してはどうか。

また、イベントということで、ぜひ20周年を大々的に打ち出していきたいし、触れ合いなど、体験できるということを重視していただけたらと思う。

○西都原考古博物館長

ホームページの件については、可能な限り早めに対応していく。

○総合博物館長

総合博物館は、SNS を使って発信している。ホームページも職員がこまめにタイミングを逃さずに更新している。今後は登録者数・フォロワー数を増やしていく努力をしなければならないと思っている。県の広報戦略室がしている SNS 等を活用するなど今後も情報発信を行いたいと思う。

○委員

総合博物館では、プレゼントを上げたらアンケートの回収率が上がったということで、費用対効果としては良いと思う。また、リピーターを増やすために、ポイントカード的なものも考えられるのではないかと。有料無料にかかわらず、西都原考古博も検討してはどうか。

○総合博物館長

今配布しているのは缶バッジである。特製の缶バッジをアンケート回答者に差し上げている。効果はあるので、予算の制限はあるが、アンケートのご意見は重要だと考えられるので、これからも取り組んでいきたい。

スタンプラリーについては、リピーターのポイントに対して到達毎にプレゼントを配布することも非常に良いアイデアなので、館内で検討したいと思う。

○会長

アンケートの形式とは。

○総合博物館長

QRコードを館内に設置し、スマホで回答してもらっている。回答結果を提示すると缶バッジがもらえるという仕組みにしている。

○会長

オンラインということであれば、館外でもそういうこともできるのでは。

○総合博物館長

現在実施のアンケートは、館内にQRコードを表示している。今後、ホームページ上でも回答できるようにすることも検討したい。

○会長

品物ではなく、壁紙ダウンロードできるというような金銭がかからないものも考えられると思うが。

○総合博物館長

総合博物館では、スマホの壁紙などはプレゼントしている。さらにPRしていきたい。

○委員

観光サイドの方の将来的なお願いとして。

現在、円安もあって、全国的には非常にインバウンドが増えている。宮崎の場合は、今後、着実に伸びが見込まれる分野と思われる。そこで、総合博物館に関しては、民家園が去年、香港の学生が来て非常に好評を博したと聞いている。そういう形で、今後いろいろなアプローチが増えてくる可能性がある。それから西都原考古博物館にいたっては、この景観を見ると、季節的に多くの観光客が集まっている。また、学術的には数年前にドイツの大学の先生が調査に来ている。そういった意味で、これから将来的には、インバウンドも含めた外国人対応ということが、徐々に増えていくと思う。この点も将来展望として視野に入れたいとだけありがたい。

○総合博館長

博物館も今年度は外国人数が昨年増えてきている。民家園には、今年度、香港^{ほんこん}恒生大学の学生が来て書道体験や着物の着付け体験をした。そういうことが今後増えていくと考えられる。対応できるツールがあるので、さらに充実できるように、検討していきたい。

○委員

民家園の神楽公演は、ものすごい人数が見に来ている。地域の方、周辺にいる親族も、そこを故郷としている人たちも民家園に来ている。

例えば正月体験もだが、そのような企画はいいと思う。自然分野の蝶やキノコも一緒に、博物館に出かけていきたいと思うような、子どもの視点と高齢者の視点からみて人々が求めている展示をすると良いのかもしれない。

○総合博館長

高齢者の方の視点では、例えば今年の夏の特別展「レトロ to ミライ」を実施したが、通常の「モンスター水族館」や恐竜ものとは違って、60・70代の方が、お孫さんと一緒に来るなどの姿が見られた。

また、ロビー展「牧野富太郎が見た宮崎の植物」の展示では、最終日にもものすごい数の年配の方が押し寄せた。こんな様子は見たことがないと言うぐらい本当にすごいことになった。

このように年代を考える展示をやることによって、来館者が増えるという実感があったので、これからも民家園を含め、様々な年代の方に来ていただけるように展示工夫をしていきたいと思っているところである。

(4) その他

意見等なし